伝えよう・広げよう・キリストの心を

福音宣教
社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

共に生きる

聖家族有志会報

No.13

霜月（しもつき） 11 2011

編集＝瀬下幸弘（FAX）093-622-1290　mail : adoruck@axel.ocn.ne.jp

15年前の署名活動

皆様のご支援が実りました！

障害者支援施設　ひよりの丘　開設

有難うございました

香月木屋瀬地区
山田弘さんが御礼と報告

八幡西区石坂2丁目5-21

障害者更生施設小池学園成人部の建て替えについて、親の会では1996年11月、北九州市に対し17,245筆の署名を添えて陳情を行いました。カトリック教会関係、特に黒崎教会の皆様には、快く署名していただき、その上多くの方が署名用紙を持ち帰り、ご家庭やご近所、町内をくまなく廻られ署名を集めていただきました。その数3,000筆以上でした。おかげで立派な施設が出来上がりましたことを、15年経ちましたが、喜びのうちに報告申し上げます。有難うございました。　山田　弘　（詳細は2面掲載）

「国是と信教の自由」ブックレットが完成

・溝部司教　・谷　司教
・吉田牧師　・森上牧師　が語る、今最も重要なこと

この小冊子は「カトリック二十条の会」主催で行われた、2010年5月29日の仙台、2011年5月21日の北九州シンポジウムをまとめたものです。

この講演記録を読んで改めて憲法九条と並んで二十条の重要性を再認識いたしました。キリスト者として信仰の自由を今こそ擁護するためにぜひ一読され、学習会などで使用することをお勧めする次第です。

日本カトリック正義と平和協議会事務局長　大倉一美神父

100円以上のカンパ協力金をお願いしています。
（カトリック20条の会員が呼びかけます）

11月のお知らせ

◆11月６日（日）ACO黙想会（下関労働教育センター）
午後１時～７日（月）14時
「働く人94号」が出来ました。

◆11月13日（日）東日本震災被災者への募金呼びかけ
英語ミサと交流　……15時
さよなら原発1万人集会（舞鶴公園）　……13時

◆11月14日（月）　宣教部会　テレジア　…19時

◆11月26日（土）キリスト者九条の会　西南KCC　13時半

◆11月27日（日）　虹の会（生活の分かち合い）　ミサ後

東日本大震災被災者支援

10月9日の募金額は
40,040円 でした。

CTIC外国人被災者支援センターに送金

信徒協
研修会

森司教、福音宣教ナイスについて語る

（9／23講演より冒頭部紹介）

森一弘司教

森司教講演録を含む研修会記録集が11月中旬頃出来上がります。研修会に参加できなかった方にも配布できるようにします。（申込み／濱まで）

今日お話しすることは、ちょっと極端かもしれません。でも、こういう考え方もある、こういう生き方を育てようとしているものもいるっていうふうに、参考として受け取っていただければ有り難いなと思いますね。

資料に「ナイス１に見る教会理念と宣教理念の転換」って転換への呼びかけがあるんですね。この転換っていうのは、何から何への転換なのかっていうことを、確かめておきたいなと思ったんです。その中に「神の民すべてが、教会の姿勢や信仰のあり方を見直し、思い切った転換を図らねばならないという結論に達しました。」とあり、これはその当時の司教たちのまとめです。教会の姿勢や信仰のあり方を見直し転換しようと言うんです。そして次の言葉は「信仰を、掟や教義を中心としたとらえ方から、『生きること、しかも、ともに喜びをもって生きること』を中心としたとらえ方に転換したいと思います。」と言って、信仰や教義を中心としたことから、生きること、喜びをもって生きることに転換したいって書いてある。これが、ナイスが目指そうとしたものなんですね。今日、ここに絞ってお話ししたいと思うんです。

こんな質問が出ました

①信者の声を聞く司祭が少ないのでは？
②エクレシアが「寄り合い」となると今の組織や建物はどうなる？
③幼児洗礼で掟や教義でやってきたので福音宣教は分かりにくい。
④ナイスでの結果が見えないのは、何が原因でしょうか。

（森司教の答えは記録集に掲載）

それで、原点に戻ってというところから、もう一度現代の教会とこれからの教会とを考えないと、教会の中に説得力がなかったですね。第二バチカン公会議は、原点に戻ってというところから歩もうとしている。最初に話しました掟や教義を中心とした信仰のとらえ方から、生きることを中心にしたっていうこの言葉は、考えてみると恐ろしい言葉ですね。つまり、僕らの心の中、あるいは、頭の中に組み込まれているのは、教えや掟なんです。それを伝えてきたのは、聖職者たち。その頂点に教皇がいて、枢機卿、司教、聖職者がいる。その下に、私達が一応いて、教えとか教義によって動かされてきているわけですね。だからピラミッド型なんですよ。教皇が頂点にいて、大きなピラミッド型の共同体組織の中に私達がいる。そういう組織に対して、“掟や教義を中心としたとらえ方から変わりましょうよ”と言ってるわけですから。このピラミッド型の組織をなんとかしなければならないんじゃないかな、という気持ちが当時の司教達にあった。…　（続きは記録集に掲載しています。）

障害者施設
小池学園
建て替えの要望と経緯

（一面続き　山田弘さん報告）

①小池学園児童部に入所中の過令児（18才以上）の行き先の確保
②老朽化している成人部の建て替え

を署名を添えて陳情しました。

当時福祉事業団担当助役に対応してもらい、具体的な検討をすみやかに進めたいとの返事をもらいました。その後民生局や市議会小委員会等に対しひんぱんに交渉、請願、陳情を続けてまいりました。その結果、2004年4月1日、門司区に開所した活動センターに併設された定員60名の入所施設によって①の要望が解決しました。

それから7年経過して、やっと今年10月1日に八幡西区石坂の地に成人部が移転建て替えとなりました。名称は「ひよりの丘」。

この間、障害者福祉に関する法律は２回も変わりました。その法律に基づいて日中活動棟や共同生活介護事業（ケアホーム）も新しく隣接地に開設されました。もう一つ、地域交流棟も新設していただき、施設から地域への流れをつくり出す第一歩になれればと願っています。

10月９日、市長をはじめ市議会議長、議員、地域の多くの方々の参加を得て開所式を開催することが出来ました。　お礼申し上げます。山田弘

東日本大震災被災者支援関連ニュース

CTICこの1ヶ月の主な動き報告です。 ［Sr. 高木百世］

●９月末、フィリピンのアキノ大統領が宮城県石巻教会を訪れ、被災したフィリピン人と交流されたことは報道されましたが、震災以来、CTICがサポートされてきた方々が、宮城、福島、岩手から皆集まりました。また、この集まりに先立ち、大統領訪問の受け入れのプログラムを仙台教区から依頼されてCTICが担当されました。

●今まで仙台教区沿岸部には外国人司牧のための司祭は不在でしたが、10月より念願かなって大阪管区（広島教区）より淳心会の神父様がお二人（フィリピン人とインドネシア人）大船渡に来て下さることになりました。この神父様方が、３県沿岸部の外国人司牧を担当して下さるので、今後この神父様方と連絡をとりながら後方支援でニーズをみていかれることになりました。

●福島の自主避難区域の30キロ圏内の人々には補助が出ませんので、経済的に苦しい方の東京への疎開を支援されています。

編集部より読者の皆様へご相談

７月末に上智大学で山浦玄嗣氏の講演（CTIC）があり、そのDVDが送られてくることになっています。これをたくさんの方に見ていただきたいと思いますが、どうすればよいでしょうか。ご意見下さい。（FAX 622-1290）

分かち合いのとき

虹の会

10月23日
16名参加

「核への『ノー』を」

カタルーニャ国際賞(スペイン北東部のカタルーニャ自治州が文化や人文科学の分野で活躍した人に贈る賞)を授与された村上春樹さんの授賞式でのスピーチをもとに分かち合いました。

1945年核爆弾を投下された経験を持つ私たち日本人にとって、福島の原発事故は二度目の大きな核の被害です。その事を重く受けとめ、参加された方々の身近な体験や思いが分かち合われました。

「我々は被害者であると同時に加害者でもあるのです。」

「我々日本人は核に対する『ノー』を叫び続けるべきだった。」

という村上春樹さんの言葉に共感し、もう同じ失敗を繰り返したくないという強い思いが分かち合われました。　　次回は、11月27日です。どなたでもご参加ください。

平和の集い

小倉教会　8月7日

林神父のお話

【私達が今求められていること】

・希望に向かって行くなら、発言することです。間違っていたら、あとから直せばいいのです。発言しなければ、私達の国は沈黙の羊の国になります。必ず、自分で考えて、間違ってもいいから発言していくことを大切にしましょう。

・ 平和公園で姜尚中（カンサンジュン）の話に遭遇。「40年経って初めて、日本と韓国の大学生が一緒になって、慰霊塔の前に立っている。」「過去は殺せません！過去は殺せない」「私は生みの親と育ての親が違う。生みの親は韓国、育ての親は日本。生みの親と育ての親がけんかすると悲しい。これからの希望は、けんかでなく前向きに」と若い人に一生懸命話していた。

・乗り越えないといけないことは、格差の是正です。かつて東チモールで、援助物資が届くと、ジャングルの中からみんな出て来る。でも、この援助物資だけじゃ足りない。「イエズスさん、降りて来て、このパンを増やしてくれよ。あなたは、５つのパンと二つの魚を増やしてみんなに食べさせてくれたやないですか。かくれんぼ止めてよ」と心底思いました。そのとき、心の中でささやきが。**「まだわからないのか？みんなが持っているパンを分けたら、十分有り余るほどあるだろう」**。格差是正とは、既得権の再分配のことです。私達が目指す希望の原点は、最後の晩餐のときのように、お互いの足を洗い、お互いの面倒をみ、そして、パンを割くことです。イエスは、希望をここに置いたのです。ミサは、希望のかたまりなんです。　（終り）

読者投稿

「インコに祝福を」

私の家にセキセイインコが三羽いる。それは、私の家族であり、そのため、それぞれに名が付いている。その名は、阪神の選手から、真弓明信・檜山進次_・新井貴浩・の名を頂き、このインコに「あきのぶ」「しんじろう」「たかひろ」と名付けた。なぜなら、私の家族はみな阪神ファンだからである。

だが、残念なことがある。このインコたちに“おはよう”“こんにちは”“おやすみ”の言葉を数百回にわたり教えたが、結果は馬耳東風、全く覚えてくれない。これは、私に似て覚えが悪い。そこで、このインコの覚えの悪さは、さておいて褒めたいことがある。それは、テレビの前にて、阪神の選手たちの試合に、「頑張って」の‘さえずり’は勝敗にかかわらず心を和ませてくれる。また、この三羽とも仲が良く、お互いくちづけの挨拶は平和そのものである。そのなかで、朝に夕に、三羽きちんと並んでのリズムある‘さえずり’は、まさにロザリオの祈りであり、私はこのインコの容姿と行動に感動を覚えたことにある。

ところで、この近辺にいるインコを見まわすと、その色の多彩さと美しさに驚いている。それは、神が天地を創造されたとき、創られたものを見て、「良しとされた」この創造の美を、このインコを通じて、改めて思い知らされたからである。そこで、「このインコに祝福を」とわたしは神にお願いした。（孝）

命日祭をどのように祈念していますか。

カトリック教会は特別な定めがありません。家族全員が信者なら特に問題はないのですが、そうでないケースが多々有ります。

今回、ご自宅で命日祭（いわゆる法事）を行うことに決めた方から相談がありました。数人の信者が集まり、案を出し合った結果、それをもとに福音や祈りと家族ならではの工夫をした式次第が出来上がったようです。司祭に全てを頼らなくとも心を込めた祈りを行うのは、信徒のつとめだと実感しました。（I）

神の偏愛

パプテスト教会の礼拝に出席。ルカ15章の“見失った羊のたとえ”の箇所を具体的生活の中にあてはめて話された事例に感動した。仏教徒の父親が、洗礼を受け病気で亡くなった娘の生き様を見て語った言葉は「私には３人の子がいるが、この数年２人の子のことはほったらかして、この娘のことだけを思ってきた。一匹の羊のために100％の愛を注いだ聖書の話は、見失った羊のたとえではなく、神から見い出された羊の話ですね」…と。その後牧師は「教会は嬉しいことも苦しいことも分かち合える場です」。礼拝後、笑顔で帰る皆の顔がまぶしかった。（E）

誰なの？

原発のシンポジュウムに参加しました。政治家、官僚、業界、学者、マスコミの５者連合によって安全神話がつくられ、被爆国日本に54基も。原発産業は巨大ビジネスだった…。今、防衛省は１兆円で戦闘機を買おうとしている。（何故東北に送らないの？）軍事ビジネスを推し進めているのは誰なのでしょう？！（N）

WYD（ワールドユースデー）の時の写真です！（Y）

ツィッター

再び「小教区」の語源について

先月、小教区の語源を「気兼ねなく滞在できる家」と書いたところ、「何処に書いてありますか？」と質問を受けました。カトリック新聞、1999年9月26日号。教皇ヨハネ・パウロ二世のメッセージにあります。（K）

探しています

教会ロビーにある中央協議会の書籍コーナーから“教会の社会教説綱要”の本がありません。見本ですから、返却して下さい。

「教区の日」開催に向けて信徒協にも協力要請

北九州から濱 鶴松さん他１名参加

10月23日、福岡教区本部事務局より「11月23日の教区の日に向けて、どのように開催するのか」について、各地区信徒協代表者等に呼びかけがありました。司祭７名、信徒協５名、修女連１名で討議し、事務局で具体化し進めていくことになりました。今後は、修道会や信徒の皆さんも含めて話し合っていきたいとの意見が出されました。

※黒崎の平和講演（2011年6月5日）シリーズ全7回

いま、カザフスタンでは ⑤

秋吉久紀夫

帝政ロシアは今こそカザフ併合のチャンスとばかりに、小帳と中帳とに分け、オレンブルグと西シベリア総督の統治下に置いた。

が、まもなくロシア皇帝は可汗制を廃止、全面的にロシア式の管理下としてしまった。しかしカザフの人々はこの帝政ロシアの植民地統治に対して反抗し、しばしば激しい武装蜂起を繰り返した。その中でも一八三六年のケニサル指導の反乱は一〇年間も長引き、全カザフスタンを巻き込んだ。が帝政ロシアの血腥い鎮圧下で、これらの反乱はすべて失敗に終わった。一〇〇年にも亘る戦争を経て一九世紀後期に入り、カザフスタンの全土は帝政ロシアの領土となり、トルキスタン、オレンブルグ、西シベリアの三つの総督区に分け、カザフ地区支配のために帝政ロシアは大量の移民を送り込み、そして同時にカザフスタン内部で鉄道を敷設し工業化を推進、荒地を開墾し、カザフの人々は遊牧社会から近代化社会への移行を開始した。第一次世界大戦の期間、ロシア皇帝の命令でカザフ人は徴兵されたが、多くの者は反抗し、A・イマノフなどの指揮の下、大規模な民族暴動が発生し帝政ロシアの植民地統治に打撃を与えた。

一九一七年、ロシア二月革命でツァーリ・ニコライ二世は退位。カザフ人は自分らの「臨時人民評議会アラシュ・オルダ」を結成し、首班にA・ボケイハノフを選んだ。一〇月革命時期、国内各地に続々と政権が成立、高級将校フーロンヂーとクービシュエフの指揮下に白軍を撃破し国内全土をソビエート化した。一九二〇年八月二六日に、ソ連中央執行委員会と人民委員会の命令でカザフスタンは、ソビエート社会主義自治共和国となり、ソビエート連邦に所属。首都は当初はオレンブルグだったが、一九二四年にクズルオルダに遷都した。

自治共和国の領土は二七〇万平方㌔、一九二五年四月にカザフソビエート社会主義自治共和国と改め、一九二九年に又もアルマトイに遷都した。二〇世紀の二、三〇年代の農業集団化運動を経て殆どの牧畜民が土地に定着し農業に従事し始め、一九五〇年代ソ連政府はカザフスタンで大規模な開拓事業を開始。全ソビエートの重要な食糧生産地の一つに位置づけた。さらにカザフスタンに化学、冶金、機械、エネルギー源工業を発展させ、ここを全ソビエートの重工業基地にしようとした。

こうしてカザフスタンは二〇世紀の八〇年代に、その経済力はすでに全ソビエートでロシア連邦、ウクライナ共和国に次ぐ地位を占めたのである。

ところで、カザフスタンの政治形態はどにようになっているのか。この文の最初で現在のカザフスタンの大統領ナザルバエフは、一九九一年末のソビエート崩壊前から既に大統領を務めていたとあったが、今年二〇一一年二月、初めて大統領公選制で当選した。次はかれの経歴である。

ナザルバエフはカザフ族出身で、一九四〇年にアルマトイ州カスケレン区チェモルガン村の平凡な農民の家庭に生まれた。カラガンダ金属付属工業大学に進み、一九六〇年に鋼鉄部門党委員会書記となる。一九七七年にカラガンダ州委員会第二書記。一九八四年から八九年までカザフスタン加盟共和国部長会議主席。一九九一年一二月に、カザフスタン独立後の最初の総統となる。一九九九年の選挙で再選。二〇〇五年の選挙で三選。二〇一一年二月、民主的選挙で大統領に当選。

彼には次のような著書がある。『探索の路』『カザフスタンの主権国家形成と発展戦略』『二一世紀の敷居に立つ』『カザフスタンの2030年までの戦略的発展』『発展中のカザフスタン』『カザフスタンの今日と未来』などである。なお夫人のナザルバエフ・サラは、カザフスタン全国婦人運動主席で、多くの慈善事業団体の指導者でもある。

カザフスタンは、独立前までは共産党の一党独裁であったが、現在の政治形態は、議会が国の最高立方機関で、上下両院制に分かれ、上院は三九議席、下院は七七議席である。上院議員の任期は六年で、三年ごとに半数が改選され、下院議員の任期は五年である。

政党で議員を擁しているのは九つの政党で、祖国党、公民党、民主党、農業党、農民社会民主党、共産党、愛国者党、アサール党、ルホニヤド党である。

六、カザフスタンの文学

次にカザフスタンの文学を取り上げてみよう。カザフスタンには多くの民族が悠久の歴史の中で形成して来たそれぞれの独特の文化がある。

それは彼らの放牧生活とは無関係ではない。無論、ウズベク族やウイグル族などの中央アジアの農業民族の文化ともかなりの違いがある。

参考文献『哈薩克族文化史』

（つづく）

東日本大震災　ボランティア活動に参加して（1）（3回連続）

折尾地区　有吉　優里

年3月11日に起こった東日本大震災、あまりにも信じられないような映像をテレビで見る日々、原発の爆発などの人災に心を痛めました。そのころよく言われていた「ひとつになろう」という言葉には「でも、やっぱりつらい思いをするのは被災した人々だ。軽々しく一緒に頑張ろうなどと言えない」という思いを持っていました。既にボランティアに行かれた神父様から「ボランティアには行かんのか？」と聞かれ、「行きたいと思っているんですけどなかなか…」と返しました。電話を切った後もなぜかもやもやして、「本当に行けないのか？」と自分に問い続けていました。もしかしたら9月なら？…その後、二人の友達にも声をかけ共に行くことになりました。

【9月10日】朝9時に福岡空港をたち、11時過ぎに羽田着、東京駅から新幹線で仙台駅に向かいました。丁度ジャズフェスティバルが行われていて、多くの人でにぎわい、予想以上に都会だったので驚きました。仙台教区サポートセンターの方があたたかく迎えて下さり、1時間30分くらいバスに乗り、登米市（とめし）に行きました。バスから見える風景はイネやムギで覆われた田が広がり、とてもおだやかな感じを受けました。ついたのは17時ごろ。

【9月11日】5時起床、6時半から朝の祈り。7時40分出発。いつの間にかテレビで見たあの風景が広がっていることに驚き、声もでませんでした。南三陸町はまだまだ押しつぶされた車や骨組だけの建物がたくさん残っており、津波の恐ろしさを見せつけられるような感じで、ただただ恐ろしく、これが本当に現実に起こったことなのかと信じられない気持ちでした。完全に綺麗にすることを考えると気が遠くなるようでした。

現地では、ボランティアをするうえでのモラルなどの説明を受けました。この日は私達カリタスの6名のほかにヤマト運輸の関西支部から22名、フランスからボランティアのために日本に来ている男性も一緒に上山八幡宮のがれき撤去です。

秋の祭りが近いので急ぎの仕事であること、無理しないようになどの説明を受けました。木、プラスチック、陶器や瓦など分別しながら、そして何よりささいなものでも誰かにとって大事なものかもしれない写真やビデオなどを見逃さないように作業していきました。

堆積されたものは多く、押し固められており、地面も見えません。自分は瓦礫を袋で受けることしかしていない…と少し気持ちが焦り、落ちこみました。

活動初日を終え、やはり自分のできることはわずかだと思いました。しかし、たくさんの人が思いをひとつにして集まって力を合わせたらどれだけ大きな力になるか、と前向きな気持ち、希望を感じました。

ACO機関紙　**「働く人94号」11月初旬**

［特集］

東日本大震災と
福島原発事故の真実とこれから

編集後記

拙紙「共に生きる」が第13号の発行となり２年目となった。応援して下さる方々と読者の皆様に感謝したい。

今号は一面に「ひよりの丘」開設ニュースをおいた。15年前、黒崎教会で障害者更生施設建て替え要望の署名を呼びかけられ、職場で署名したことをわずかに記憶している。が、署名を集める当事者たちにとっては過ぎ去った出来事ではないはず。その後もねばり強い活動を続けてこられた結果が、ようやく新しい局面を開かせたもの。頭が下がる思いだ。理屈で人は動かない。“いまこれが大切だ”と気づいたり感動したりすることでその人の心に「内的変化」が起こる。社会的弱者の立場に立つと“祈れば必ず行動が生まれる。行動すれば祈りの渇きが生じる”ようになり共に生きる意味が理解できる。森司教は「教会の姿勢や信仰を、掟や教義を中心としたとらえ方から、**共に喜びをもって生きる**ことに転換しようとしたことが、福音宣教ナイスの目指そうとしたもの」と説明した。毎週集う私たちは「共に喜びを分かち合っていますか」と問われているようでもある。（瀬下）